

## 人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の利用目的及び利用方法》	<p>●研究の名称 高悪性度肺神経内分泌がんにおける、運命制御転写因子の臨床病理学的特徴と治療反応性・予後との関連の後向き検討</p>
	<p>●研究の対象 1990年～2020年までで、当院及び共同研究機関において、組織学的に高悪性度肺神経内分泌がんと診断された方。</p>
	<p>●研究の目的 肺がんは、癌死の最多原因であり、とりわけ高悪性度肺神経内分泌がんの代表である小細胞がんは最も予後不良な肺がんの組織型として知られています。小細胞肺がんにおけるマスターレギュレーターと呼ばれる転写因子の発現プロファイルによる分類が最近提唱され、これが今後の小細胞肺がんの個別化医療と治療成績の向上につながる可能性が期待されています。しかしながら、各レギュレーターの役割や、その発現の有無による治療反応性や予後への影響は明らかではありません。また、小細胞肺がんと同様に神経内分泌分化を特徴とする大細胞神経内分泌がん（Large cell neuroendocrine carcinoma: LCNEC）については、さらに臨床的・基礎的な知見に乏しく、上記の小細胞肺がんにおける運命制御転写因子の発現プロファイルがそのままLCNECに適用できるかはわかっていません。</p> <p>本研究は、高悪性度肺神経内分泌がんの採取済み検体組織を利用し、各運命制御転写因子とそれに付随する重要なタンパク質の発現状況を明らかにし、臨床病理情報と照らし合わせて解析を行う後ろ向き研究です。本研究により、高悪性度肺神経内分泌がんの病態の理解を深めることを目的とします。</p>
<p>●研究の期間</p>	

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

	<p>研究機関の長による実施承認日から 2025年10月まで。</p>
	<p>●他の機関に提供する場合には、その方法 この研究では外部へ試料・情報を提供しません。</p>
<p>《利用し、又は提供する試料・情報の項目》</p>	<p>●研究に使用する試料・情報 試料：採取済み病理検体 情報：病歴、治療内容 等</p>
<p>《利用する者の範囲》</p>	<p>●機関名および責任者名 浜松医科大学 内科学第二講座 須田隆文 聖隷三方原病院 呼吸器外科 渡邊拓弥 静岡県立総合病院 呼吸器内科 朝田 和博 磐田市立総合病院 病理診断科 大西 一平 藤枝市立総合病院 呼吸器内科 松浦 駿</p>
<p>《試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称》</p>	<p>浜松医科大学 内科学第二講座 須田隆文</p>
<p>《試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）》</p>	<p>あなたの試料または情報を研究に使用することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、問い合わせ先に記載のある電話もしくはメールでお願いします。</p>
<p>《資料の入手または閲覧》</p>	<p>この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたのご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。</p>

人を対象とする医学系研究に関する情報公開文書

《情報の開示》	あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望されない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。
《問い合わせ先》	〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学  部署名： 浜松医科大学 内科学第二講座  担当者： 渡邊 裕文  TEL： 054-435-2263  E-mail： <a href="mailto:whiro@hama-med.ac.jp">whiro@hama-med.ac.jp</a>